第４回金浦中ブロック小中一貫教育校整備検討委員会会議録

日 時　 令和４年９月２６日（月）１０時００分 開議

場 所　 笠岡市役所分庁第４　２階大会議室

会 議 日 程

１　開　　会

２　あいさつ

３　議　　事

（１）既存施設の現況，必要諸室リストについて

（２）一体型一貫校金浦地区コンセプトについて

（３）配置計画比較表について

４　閉　　会

出席者

（委員長）佐々木伸子

（副委員長）原田博道

（委員）池田哲哉　山下敬広　筒井清人　藤井清二【代理出席】　山下恭司

　高木浩志　田中義昭【代理出席】　荒川光平　大友萌　出柄龍志　軒良子
川上智子　花本弥生

（事務局 教育委員会）

教育長　岡田達也

教育部長　森山一成

教育総務課　課長 松尾千鶴　　課長補佐 藤代幸弘　　主幹 福本彰弘

主任主事 猪原亮祐

学校教育課　課長 槙野英一　　参事 平田日出子　　主幹 得松学

教育改革推進室　福尾雅俊　廣井正己

（(株)日総建）勝山聡美　日下部寛之　吉川文乃

開 会 （１０時００分）

１．開会

事務局が第４回「金浦中ブロック小中一貫教育校整備検討委員会」の開会を宣言。

２．開会のあいさつ

岡田教育長が開会のあいさつをする。

３．議事

（１）既存施設の現況，必要諸室リストについて

日総建　　　　　資料１「既存施設の現況」，資料２「必要諸室リスト」に基づき説

明。

　　　　　　　　　今の学校の状況と，一般的な小中一貫校の諸室について説明したい。

　　　　　　　　「既存施設の現況」は，日総建で現地を見て，作成した資料である。これから新しい学校を建設するうえで，既存の校舎をどのように使っていくかということ，既存の校舎の課題や現状を知っていただくためにこの資料を作成した。

　　　　　　　　２ページ目以降で，緑色の部屋は我々が確認し，余剰と判断した部屋である。我々の目から客観的に見てほかの用途に変えていった方がよいのではと思ったものを緑にしている。ほかの用途に変えていくうえで耐震壁という制約があり，この壁に関しては壊すことはできない。少人数教室が一室余っているからほかの部屋とつなげる場合，耐震壁ではぶち抜くことはできない。そういった条件があることはご理解いただきたい。

　　　　　　　　またこの学校の特徴として，課題でもあるが，南棟の南側に開放廊下がある。新しく建てる学校は内部廊下になるが，現在ある開放廊下部分は外部廊下のままであるという認識をもっていただきたい。どうしても既存と新築の環境の違いが出てくる。

また，２階部分を見ていただくと階段の踊り場から渡り廊下でつながっている。階段を使わないと行き来ができない状況で，バリアフリーの考え方に反する。仮にエレベーターを設置しても，このままでは渡り廊下は使えない。開放廊下なので，教室と階段部分にどうしても段差ができてしまう。そういったところも解消が難しい部分になってくる。

続いて，「必要諸室リスト」について説明する。一般的な小中一貫校を建設した場合に，これぐらいの諸室が必要になってくるというものである。確認事項で★印で書いてあることは，笠岡市のコンセプト次第で変わってくる部分である。例えば既存の教室は６４㎡だが，今の学校はもう少し大きくなっているので，どれぐらい部屋の大きさが欲しいか，数が欲しいかということで，平面計画を作成するうえで大きな部分になるので，これをベースして考えていきたい。このあと協議いただくコンセプトをもとに諸室リストを修正していきたい。そのためのご意見をいただきたい。

委員　　　　　　教室の１室の面積だが，広くすると既存教室との格差が出てくるとのことだが，小学校の教室を見て狭いと感じる。既存教室と比べるのでなく，本当に狭いのであれば広くしてほしい。

委員　　　　　　児童生徒数・教職員数は何人になるのか。また，机について，昔ながらの机を使うか，タブレットなどを置ける大きめの机か，どのように考えているか。

事務局　　　　　令和８年度では４６８人。クラス数では１年生から９年生のうち，２年生のみが１クラス。それ以外の学年は２クラスずつとなる。１クラスの人数は３０人弱が多い。９年生だけは３５人ぐらいになる。教職員数は小中併せて５０人程度。支援員を併せると５７人ぐらいになる。

委員　　　　　　その人数の中で，机を置くスペースがあるのか，難しいのか。どのように考えているのか。

日総建　　　　　６４㎡で，昔よりも大きい今の机で３５人だとぎりぎりいっぱいになる。３０人を切ってくると動きが作れるようになる。

委員長　　　　　既存の机をそのまま使う予定か。新しい大きい机にするのか。

教育長　　　　　基本的には今のものをそのまま使うので既存の机となる。ただ，学びの形態が変わって移動しないといけないので，新しく建てる小学校棟については新しいものも考えられるが，既存の校舎はワークスペースを作ってみんなで学習することになるが，今の中学校の校舎にどう入れ込んでいくかというのは，考えていかなければならないと思う。家具は既存のものを使うということ。中学校の教室はいっぱいいっぱいなのか。

委員　　　　　　今，３０人ぐらいいるので，いっぱいいっぱいな状況である。

教育長　　　　　中学校の廊下は広くないので，近くに空きスペースがあれば，そういうコーナーを設けないといけないと考えている。

委員　　　　　　全体の必要諸室リストがでているが，まず教科教室制にするとかいうことがでてこないと面積算定できないのではないか。

事務局　　　　　教科教室型を採用したいと思っている。特に英語・数学を教科教室型にしたい。通常の教科は通常の教室で行いたい。特に英語は英語教室に行って，いろいろな掲示物が飾ってあり，そこに行けば英語が始まるんだというところで学習をしっかりやっていきたい。

委員長　　　　　一部教科教室型。

委員　　　　　　それが反映された諸室リストになっているのか。

日総建　　　　　事前にその部分は教育委員会に確認している。完全に教科教室型にする場合，府中学園でも見られるようにホームベースという教室以外の居場所を作っている。今回はそこまでではなく，外国語と数学で教科教室を作るということで，その内容で諸室リストは作っている。

委員長　　　　　一室ずつでいいのか。

事務局　　　　　ずっと稼働することになると思うが，今のところ，英語・数学とも１室で考えている。

教育長　　　　　こういう風なことを盛り込んでいきたいということは，この後説明するコンセプトに入れている。

委員長　　　　　今は一般的な小中一貫校の諸室リストができていて，コンセプトとのすり合わせはこの先に行う作業である。

　　　　　　　　私はこれを見て愕然とした。現況を見たら，耐震壁がこんなに多いということは新しい学校を作ることは到底できないと思った。これを抜くと建物が危なくなるので，このままで使うしかない。壁を抜いた後で耐震補強をすればいいのか。

日総建　　　　　お金をかけていけばできるが，そういったことについては今すぐできますと言えないのが我々の立場である。全体として耐震構造を計算しないといけないので，一概に言えない。

委員長　　　　　耐震壁を取ってしまうと，構造設計が必要となる。今，与えられているのは耐震壁を残す中で，外廊下を使いながらという衝撃的な報告内容だった。今からの計画に大きく影響してくると思う。これだけ耐震壁があれば，今とほとんど変わらない状態となる。

　　　　　　　　次に議事・報告２「一体型一貫校金浦地区コンセプトについて」について，事務局から説明をしてほしい。本日の整備検討委員会の２つの大きな目的は，議事・報告２と議事・報告３で，皆さんからできるだけ意見をいただくことである。

（２）一体型一貫校金浦地区コンセプトについて

事務局　　　　　資料３の右半分「一体型一貫校金浦地区コンセプト」について説明。こちらは事務局案である。

日総建　　　　　資料３の２ページ目，事例写真をスクリーンに１枚ずつ投影し，詳細に説明。

委員長　　　　　説明のあった５つのコンセプトについて，皆さんの意見をいただきたい。

　　　　　　　もっとこうしてほしい。これはいらないなどの意見があればいただきたい。わかりにくい部分があれば補足説明を求るので，言ってほしい。

　　　　　　　　まず，「１．多様な学びに対応する環境づくり」について，意見があるか。

委員　　　　　　今，先生は普通教室で子どもを見ている。教室を広くして小部屋等も作ったら，先生の目が余計大変になるのではと思う。そのあたりは大丈夫なのか。広すぎるのもどうなのかと思う。先生たちも慣れていなので不安ではないのか。

委員長　　　　　ああいった小部屋を作って，うまくいっている学校とうまくいっていない学校がある。ただ作ればいいというものではない。先生が見渡せる位置に小部屋があるといいのだが，視界が遮られ，先生が管理できない部屋になると途端に物置になる。ここは設計によると思う。先生が管理できる範囲でどのように配置するかというのは大切で，可視性という視点をよく考えて設計する必要がある。

事務局　　　　　職員室もすぐに子どもの様子を見に行けるようにしていく必要がある。かつては廊下側のガラスがすりガラスで，中が見えないような状況が多かったが，今は廊下を通れば中の様子がわかるようなつくりにしている。教員に子どもたちの様子がよく見える配置にしていきたい。

教育長　　　　　先ほど説明で通級指導教室を作りたいとあった。県に職員の配置を依頼しようと思っているが，今現在も市費で専門的な先生を配置しているので，必要に応じて先生が連携できるシステムを作りたい。小学校には特別教育の支援員を４０数名配置している。３つの小学校と金浦中学の先生が一緒になる。先生たちの連携を深めて，担任がいて，それ以外の先生が必要に応じて自由に動ける体制を作っていきたい。

副委員長　　　　先生たちも最初は不安だと思う。今，金浦小で１教室で３０数名いる。やっぱり狭い。教室内は見渡せるが，一名外に出てしまうと，プラス１名教員が必要になる。しかし，目の届くところにちょっとした空間があるとそこに子どもが行っても安心できる。そういったところが必要なのだと思う。ただ広くて子どもたちが，目の届かない場所に行ってしまう空間だとちょっと困る。しかし，見渡せるような空間であれば，先生も対応しやすいのではと思う。

委員長　　　　　支援員がいても，６４㎡では入りきれない。ある程度の広さが必要になる。

委員　　　　　　可動式の壁，多様な授業スタイルに対応できる教室横のオープンスペースとあるが，これは新しく建てる小学校をイメージしているのか。中学校も含めて考えているのか。中学校では実現不可能なように思うが。

教育長　　　　　既存の校舎は壁を壊せないという制約があるので，新しく作る小学校棟をメインに考えている。そのコンセプトをもとに小学校と中学校が共有できるメディアセンターができる。そうなると中学校の図書室やＰＣ教室が不要になる。その部屋を自由に使えるような空間にしたい。中学校には空間をたくさん作り，ゆとりを持たせたい。

委員長　　　　　すべてがこうなるわけではない。既存の校舎はあきらめざるを得ないのか。

事務局　　　　　壁があることが大きな障害になっているが，中学校を２棟ともそのような状態で残して使うのがいいのかというのは，ちょっと考えたいと思う。

　　　　　　　例えば１棟の１部分のみできないのであるかとか。バリアフリーなどを考えるときにそのようなことも考えていもいいのではないか。全くこのままでいいのかということは検討しないといけない。最終的にはこのままという風になるかもしれないが，検討は必要であると思う。小学校についてはコンセプトに合った形にしたいと思う。

教育長　　　　　小学校でいい環境で生活できていたのに，中学校にあがっていきなりハードルが上がっては本末転倒なので，その点について，壁を取ればどうにかなるのであれば，検討していきたいと思う。

委員長　　　　　倒すのではなく，あくまでリノベーションということか。

事務局　　　　　部屋の広さとかを考えると既存の部屋で大丈夫かどうか。そうなってくると思い切って，教育長が少人数にしようとなればということもある。部屋の面積は狭くても，人数をかえるという選択肢もある。

教育長　　　　　子どもたちの学びがつながっていくのが理念の根本なので，小学校６年間のみ良かったというものは作ってはいけないと思っている。皆様から頂いたご意見は今後検討していきたい。

委員長　　　　　３０人だと狭いが，２０人学級だったら広く使える。

教育長　　　　　教員配置は国の法律に基づいている。今は市町村でその数を決められるようになっている。笠岡市が出すのであれば，先生を配置できるようになる。既存のもので形が変えられないとなると，検討する余地があると思う。

委員長　　　　　２０人学級だと目が行き届いていいと思うが，現実問題，私立ぐらいしかできていない。

委員　　　　　　放課後児童クラブは，この敷地の中に作る予定か。

事務局　　　　　敷地の中に作るという風に思っているが，中学校棟でゆとりのあるスペースがあればそこを改修したい。無ければ，新たに新設したい。教室の埋まっていく状況を見ながら，決めていくことになると思う。

教育長　　　　　放課後児童クラブは，新しく建てる方にするとスペースを取られてしまうので，事務局の理念を実現するためには，例えば中学校棟の１階に置きたいと考えている。

委員　　　　　　放課後児童クラブの子どもたちは，教室だけで生活しない。外に出ること，体育館を使うことがある。いろいろな活動をするので，その動きを考えた運動場，体育館の配置が必要と思う。

　　　　　　　　職員室は小中の先生が１つのスペースに入ると思うが，５５名ぐらいの先生が入って，いろいろなことをすると思うが，ここにすることが，全体を見れる環境なのかどうか，府中学園で言えば，１人の先生が全部見れるのかということだが，職員室にいる空いている先生が何かあった時にすぐに動けるということも安全の面からすると重要になってくる。こういったところを考えた職員室の配置が必要だと思う。

教育長　　　　　職員室は中心に作り，小学校も中学校もきちんと見れる場所にしたい。コンセプトの１で体育館をもう一つ作りたいというのは，雨の時に放課後児童クラブの子どもが遊べないときにいいと思う。今，部活動の地域移行を検討し始めたところである。金浦中の部室が外にあるが，これが本当に必要なのかも含めて考えている。令和７年度末までに土日の部活動は地域移行する。つまり，学校と部活動を切り離す。ただ場所は使うので，金中でいうと，例えばソフトテニスだと今の運動場を使うかもしれない。笠岡市内の生徒数で言うと集団スポーツはどこかに集まってするようになる可能性が高いので，部室ではなく，例えば外用の更衣室の方がいいのではということは事務局では議論している。

　　　　　　　　そういう風なことを考えると小学校専用の体育館があると，放課後児童クラブが夏休みにでも使える。

委員長　　　　　皆さん実際の空間とかを考えているのだが，これから設計で，職員室がこの辺りになるとか，コロコロ変わっていくものなので，今日はコンセプトでご意見をいただきたい。元になる考え方があって部屋をはめていくので，コンセプトで必要なもの，不要なものの意見も言ってほしい。

　　　　　　　　私が見る限りではコンセプトは盛りだくさんで，ほしいものが全部入っている感じである。これが全部かなうかというと難しいと思う。しかし，今まで調べた中での良い物が入っていると思う。

　　　　　　　　続いてコンセプト「２．インクルーシブ教育を推進し，１人ひとりに居場所のある学校づくり」について，この方針で進めていくべきかどうか意見をいただきたい。

　　　　　　　　９年間一貫した通級学級の設置はとても大きいことだと思う。困る子どもが少なくなると教室が安定してくる。インクルーシブというのは特別支援であるが，それが全体を上げるので，そのような考え方でとらえてほしい。

委員　　　　　　コンセプトとして新しい小学校をメインとしているとのことで，既存の中学校もリノベーションする可能性がゼロではないとのことだった。現在，中学校ではタブレットをもって学習するが，収納スペースが小さくて子どもたちのものが入らない状態になっている。そのあたりも入れてほしい。

委員長　　　　　コンセプト２はこの状態で進めていきたい。

　　　　　　　　次に，コンセプト「３．地域・家庭とともに子どもたちの学びを見守る学校づくり」について，ご意見をいただきたい。こちらも重要で，特徴が出やすいところである。

　　　　　　　　地域の人・保護者の人たちが集える場所，ＰＴＡ室的なものをつくるということ。

教育長　　　　　自由に使っていただける場所を作るということである。

委員長　　　　　地域・保護者が自由に使える場所を作り，さらに特定の人が作る部屋を作るということか。

教育長　　　　　何かの時に気になることがあればそこにいていただいても構わないし，基本的には地域の方，保護者，子どもたちが交流するスペースとして活用したい。何かの会議でも使えるし，地域・保護者に開放された場所にしたい。小さい子ども用のカウンセリング室があったとすれば，空いていれば保護者が使ったらいい。

委員長　　　　　できれば地域の人がボランティアで子どもたちのところを回っていただくのがいい。私はコンセプトととしてこのようなことを掲げるのは大事だと思う。予算次第だと思うが。では，コンセプト３も大丈夫ということで。

　　　　　　　　続いて，コンセプト「４．安全・安心な学校づくり」について，ここは心配なことがいっぱいあると思うので，確認してほしい。

　　　　　　　　かさ上げによる浸水対策について。

委員　　　　　　校舎をかさ上げするのか。

事務局　　　　　校舎の部分はかさ上げする。運動場についても，真ん中あたりに水が溜まってしまうので，今後造成計画をする中で検討していきたい。

委員長　　　　　校舎は水が入らないようにする。グラウンドもある程度整備するということか。

事務局　　　　　敷地の中での対策はしていく。

委員　　　　　　どれぐらいかさ上げをする予定か。

教育長　　　　　新しく建てる新築部分を高くしすぎると，既存校舎とのバランスもある。

委員長　　　　　既存校舎はかさ上げしないのか。

事務局　　　　　平成３０年度の豪雨災害の時，正門あたりでは９０㎝ほど水に浸かっている。既存の校舎は床までは使っていない。そのため，既設校舎はそこまでは必要ないと思う。

委員長　　　　　スクールバスについては。

委員　　　　　　バスは何台ぐらい停まるスペースを考えているのか。

事務局　　　　　５台ぐらいを考えている。

委員　　　　　　バスが動く横を自転車の子どもが通ることがないようにということはすごく気になると思う。バスだけが動くようなスペースを作ってほしい。

教育長　　　　　今，事務局では，自転車の子どもは北門から入り，自転車置き場におく。徒歩も北門。スクールバスは入る場所を整備し，南門から入ることを考えている。動線を変えて，登下校時の事故は注意したいと考えている。

　　　　　　　　運動場から入るところが狭いので，関係部局と協議して広くしたいと考えている。

委員　　　　　　小学生も中学生も保護者がたくさん送り迎えされる。よく事故もあった。保護者の車の動線とかち合わないようにするように注意すべき。

教育長　　　　　そういうことを含めて安全な学校にしていきたい。

委員長　　　　　コンセプト４のそれ以外のところは大丈夫か。

　　　　　　　　次に，コンセプト「５．施設一体型のメリットを発揮した学校づくり」についてはどうか。

委員　　　　　　職員室でミーティングというのは，やりたくてもなかなかできていない。小学生も中学生も見える場所で，そういう場所ができるのであれば，是非作ってほしい。

委員　　　　　　職員室が会議の場になるのは，なかなかやりにくいと思う。散らかっているし。ちょっと気持ちを切り替えてとなると，別の場所に６０人ぐらいが集まってという環境づくりが必要になってくる。そして，トラブル時にすぐ行けるようなことも併せて整備してほしい。

教育長　　　　　ある程度の人数が入るミーティングルームは作ろうと思うが，地域の方が入る部屋には机・いすを置くので，そういうところで職員全体でとは考えている。職員室を一つにしたいというのは，将来的に条件が揃えば府中市のように義務教育学校にしたいという思いがある。そのため，小中の先生が一つの教室で一緒にできるような職員室にしたい。場所は今後の課題になると思うが。

委員長　　　　　コンセプトについて，皆さんからご意見をいただいたので，それを基に事務局で再度整理してほしい。

　　　　　　　　つづいて，議事・報告「３配置計画比較表について」日総建から，説明してほしい。

（３）配置計画比較表について

日総建　　　　　資料４配置計画比較表にもとづき，説明。

まだ，建物の中身が決まってない状態なので，この敷地の中で，この辺りにこれだけ建てられるスペースがあるということを説明したい。まずＡとして，グラウンドの南に建てる案。今回の建てる規模を考えると，ここでも十分当てはまる。続いてＢは選択肢が非常に自由度が高いものである。

グラウンドが地盤が低いので，大きくかさ上げをする必要が出てくる。最後にＣとして北棟の北側である。ここだと今の規模全部を建てるには狭い。ここを使うのであれば，ほかのスペースも併用しながらという形になる。どれが一番いいというのではなく，これらを組み合わせながら，配置を考えていくようになる。

　先ほどバスをどこに入れるかという議論があったので，そのようなことも併せて今後考えていきたい。道路を挟んで北側に学校用地があるが，こちらに校舎を建設することは今のところ考えていない。中学校の運動スペースとして利用することはあると思う。

委員長　　　　今ある金浦中学校をリノベーションして，小学校棟を新たに建設するという方針である。どこに建てればコンセプトにあった学校になるかを，これから検討していくということである。既存施設は耐震壁があり，ほとんど広い空間を作ることができない。既存校舎の活用の中で，こういったコンセプトを入れていくというのはすごく難しいと思う。そのあたり日総建はどう思うか。どのぐらい方法はあるのか。

日総建　　　　新築部分についてはいただいたコンセプトで作る。既存部分はできることをやっていく。小学校から中学校に入っていきなり環境が変わるというのは，我々も望ましくないと思う。一つの選択肢として，新築には教室を集めて，特別教室を既存校舎に集めるということも考えられる。そういうことも含めて，既存施設の活用の仕方というものもあるので，イメージを膨らませていきたい。

委員長　　　　今の話では，小学校棟を作るのではなく，併せて中身を組み替えながら，作っていこうということ。そうすれば可能性はある。

委員　　　　　プールはどのように考えているのか。

事務局　　　　プールの新設は考えていない。市内全体では，運動公園にプールができる予定。また，里庄に温水プールができる。小中学校でもいくつかプールを残して，金浦からはそちらのプールに入りに行くという風に考えている。

教育長　　　　全国的な流れだが，公共施設や民間のプールを活用して，プールを建設しないような形になってきている。市営のプールに２単位の間で，スクールバスで送り迎えをするような方向で考えている。

委員　　　　　今日決めたコンセプトを実現するために，一番きもになってくるのは既存校舎をどう使っていくかだと思う。ここにどれだけの機能と内容を持たせるかということが見えた段階で，新しく増築する小学校の内容が決まってくるのだと思う。そうすると耐震壁の扱いを早いうちに検討する必要がある。この建築物はおそらく鉄筋コンクリート造で，ラーメン構造と言われる柱と梁でできている構造だと思う。その時にこれだけの耐震壁が本当に必要なのということが極めて疑問である。建設時の構造計算書はないのか。

事務局　　　　あるとは思う。

委員　　　　　それをみれば，わかってくると思う。北棟は，階ごとに耐震壁の場所が揃ってないのがおかしい。今の議論ではこれらは全部抜くことができないから始まっているので，これらが本当に抜けないのかを確認しないと，コンセプトそのものが変わってくると思う。ここはすごく大事なことである。

事務局　　　　今，構造図などは日総建に渡しているが，構造計算書は渡していない。この建物は，新耐震である。

委員長　　　　前提が崩れることになるかもしれないが，どうするか。

委員　　　　　構造計算書があれば内容がわかるので，それで把握しないと話が進まないと思う。

教育長　　　　今，笠岡市にあるものを日総建にお見せして，活用できるかどうかを判断していただくようにしたい。それは事務局でまず確認してみたい。

委員長　　　　それほどたくさん抜けるわけではないと思うが，確認をしてほしい。

　　　　　　　ここから先，既存校舎の活用方法が非常に重要になってくる。全国の学校も同じような状況で，既存校舎をどう使っていくかという風になっている。例えば，一階部分だけ増築するとか，減築するとか，そういったことも考えられると思うのだが，今から検討の中に入ってくるということでいいのか。

教育長　　　　基本的なことを言うと，市長とも協議をして，小学校棟は新築する。中学校はリノベーションをして，大きく段差がないように配慮していく。というスタンスで考えてきたので，そのあたりをもう一度整理した方がいい。

事務局　　　　減築というのは例えばどのようなものか。３階部分を取ってしまうとか。

委員長　　　　減築は現実的ではないにしても，１階を伸ばして増築するとかいうのも実際問題ある。既存の活用といっても，３０数年たっている建物なので，耐用年数はあと３０年しかない。

教育長　　　　どれだけお金がかかるかということを財政当局と検討する必要があるので，ここでやりますとは言えない。基本的な考えとしては，先ほど話した内容である程度詰めていかなければならない。

委員長　　　　　減築，改築，増築も検討していただきたい。

　　　　　　　　配置計画比較表は，一概にこれがいいとはいいがたい。組み合わせて建設していくことなると思う。

教育長　　　　　野外ステージがあるが，これは使っているのか。

委員　　　　　　合唱コンクールなどで使っていたようだが，ここ何年も活用していない。

教育長　　　　　案にもよるが，野外ステージはつぶしてもよいか。

委員　　　　　　構わない。あと，体育館は２つになるのか。

教育長　　　　　雨の日に小中合同で安全に使うというのは，現実的には難しいので，小学校用の体育館を作りたいと思っている。

事務局　　　　　別棟ではなく，同じ建物の中にということも検討している。講堂のような感じで集会もできるような。

委員長　　　　　全体を通してご意見・質問があるか。

委員　　　　　　放課後児童クラブは，各学校に残すのか。

教育長　　　　　小中一貫校の敷地内の１つに集約し，各小学校のものはなくしていくことを考えている。放課後児童クラブはこども部が担当なので，協力しながら，対応していきたい。

事務局　　　　　今井小が笠岡小に統合されるが，保護者の方の意見を聞きながら調整しているが，最終的には笠岡小で一緒になった方がいいという話でまとまってきている。

委員長　　　　　コンセプトのなかにも児童クラブのことが入っていないので，部局は違うが連携していってほしい。

教育長　　　　　しっかり連携してきたい。

委員長　　　　　今日何点か，再検討が必要な項目が出てきたと思う。コンセプトを纏めていただき，それをもとに既存施設のリノベーション＋新築という形で案を作っていただくように，今後なると思う。

　　　　　　　　本日の議事は終了したので，議長の職を引かせていただく。

４．閉 会 （１１時５３分）